

## 授業科目 生化学実習

【担当教員名】 土屋 康雄、浅井 孝夫、野崎 涼子		対象学年	1	対象学科	臨床
		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	45
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	○			◎	
【概要・一般目標：G10】 生体を構成している物質の基本構造や性質、機能などを理解し、それぞれの項目の分析技術を習得する。					
【学習目標・行動目標：SBO】 1 実験に使用する器具器材の正しい使用法を熟練する。 2 緩衝液の調整法や性質について説明する。 3 生体物質の測定方法や性質を簡単に説明する。 4 酵素反応に必要な条件について説明する。 5 核酸の抽出法や増幅法について説明する。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1. 2	ピペット、天秤、比色計などの操作法			1	講義・実習
3. 4	緩衝液の調整			2	講義・実習
5. 6	糖の性質			3	講義・実習
7. 8	蛋白質の性質			3	講義・実習
9. 10	血清総蛋白質の定量			3	講義・実習
11. 12	リポ蛋白分画			3	講義・実習
13. 14	血清総コレステロールの定量			3	講義・実習
15. 16	酵素の Km 算出			4	講義・実習
17. 18	血液からの DNA 抽出			5	講義・実習
19. 20	PCR、電気泳動			5	講義・実習
21. 22	血清マグネシウムの測定			3	講義・実習
23. 24	尿中ヒト hCG の確認			3	講義・実習
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)					
参考書		臨床検査学講座 生化学 第2版	阿部 喜代司 他	医歯薬出版	2006・3,700円＋税
その他の資料		配布資料			
【評価方法】 レポート：10%（各実習の目的、方法、結果、考察、参考文献まで記載されているか評価する） 実技試験：20%（各種器具器材の操作法の習得度合いを評価する） 筆記試験：70%			【履修上の留意点】 統合的な理解のために講義前の自主的学習が重要である。		